

## 市民がつくるエネルギーシフト

一般社団法人 洗楓座  
一般社団法人 e f c o . j p

代表理事 佐藤建吉

## ▼エネルギーシフト

かつて、NHKテレビで放映された『エネルギーシフトへの挑戦』という番組があった。再生可能なエネルギーを主体としたエネルギー利用の可能性について、アメリカの著名なエネルギー学者のエイモリー・ロビンズ氏が、自身の考えと各地での先進事例を紹介し、そのコメントをつくろうとした。「エネルギーシフト」という言葉が新鮮であった。

しかし、この言葉から発想されるエネルギーについては、各人で、異なっている。「オルタナティブ・エネルギー」や「パワー・シフト」なども発想される。AからBへの移動が「シフト」であるが、「エネルギーシフト」では、テストケースのBは、Aからすぐではなく、むしろJなどまで多くのステップ、すなわち通過点が必要ではないかと考える。こうして、このAからJまでの移動には、あるシナリオが必要となるだろう。

## ▼序破急がシナリオ

「シナリオ」は、台本であり、登場人物の台詞や動作が、あらかじめ文字として演出表現されている。いわば、動作連びの演出マニュアルである。

エネルギーシフトのシ

ナリオはどうかであろうか。登場人物は、今日的な言葉ではステークホルダーとなるだろうが、かなり複雑で、複数になる。日本の雅楽の、とくに舞楽のなかに流れる「序破急」という三部構成がある。小学校の国語の作文の授業でも四部構成の「起承転結」は教わるが、三部構成の「序破急」という呼び方は教えられていない。

雅楽の「序破急」では、「序」「破」「急」のそれぞれに、序破急があるという。つまり、全体が九つのステップからなり、それが、隠し技となっている。前段の導入部が「序」、中段の展開部が「破」、後段の発展部が「急」にあたる。しかし各段の分量は同じではない。もちろん中段の「破」が多いのが普通となる。序破急は、能楽や歌舞伎ばかりでなく、剣術、居合道、茶道においても、これが底流にある。室町時代から続く日本の伝統的な表現方法である。

## ▼エネルギーシフトのシナリオ

「エネルギーシフト」は、現実のエネルギー利用状況から、望ましい目標への移動であり、前述したAからB（あるいはJ）への移動である。その移動は、時空間における状態（状況）変化で行われる。ここでは、再生可能エネルギー利用を高めることを背景としている。

概念的には、ステークホルダーのそれぞれについて、例えば、現在から10年後までの再生可能エネルギー利用度  $e(t)$  をパーセント表示したものを、代表指標として採用し、それを向上させたい。図示すれば、

今年1月、所属する e f c o . j p の主催で、大蔵流狂言師・善竹十郎氏に、狂言について実演を加えた特別な講話をして頂いた。とくに、大蔵流狂言における序破急のエネルギー利用体系を考

える必要がある。各自が存在する場所の空間座標  $x(t)$ 、 $y(t)$ 、 $z(t)$  と、再生可能エネルギー利用度  $e(t)$  の変化を取り上げる。したがって、現在の  $x(t_1)$ 、 $y(t_1)$ 、 $z(t_1)$  から10年後の、 $x(t_{10})$ 、 $y(t_{10})$ 、 $z(t_{10})$ 、 $e(t_{10})$  に移動することである。

場所  $x(t)$ 、 $y(t)$ 、 $z(t)$  の移動は、居住地の移転、例えば都会から田舎へ、あるいはその逆も考慮している。z(t) により、一戸建てから高層マンションへ、あるいはその逆などの移動も示すことができる。重要なことは、この移動により再生可能エネルギー利用度  $e(t)$  が向上することである。

パーセント表示の代表

指標として  $e(t)$  を一元化するためには、評価式が必要である。その式の中には多くの関係因子（要素）がある。例えばエネルギー源の内訳としての太陽・風力・水力・バイオマス・地熱などの割合のほか、エネルギー利用形態としての電気・機械・熱・光・水素などの割合、さらにライフスタイルなどによるエネルギー使用量（消費量）などであり、これらが、 $e(t)$  として一元化される。

▼Of By Forのエネルギーシフト  
この場合、そのシナリオライターは、誰になるだろうか。

▼エネルギーシフトの演出マニュアル  
このエネルギーシフトでは、AからB（またはJ）における移動過程を、特に  $e(t)$  について、「見える化・分かる化・出来る化」するのが大事となる。それは、いわば、「再生可能エネルギー利用度チェックのためカルテ」である。その「カルテ」は、各々のステークホルダーの  $e(t)$  について、 $t_1$

から  $t_{10}$  までの経時変化を定期的なまとめたものとなる。前述した関係因子（要素）が、個別に表示されている。この「カルテ」は、エネルギーシフトの演出マニュアルとして役立つだろう。

「演者」であり、「観客」でもある。そのシナリオライターも、また演出家も、じつは「市民」により行われる必要がある。こうして、「市民の、市民による、市民のためのエネルギーシフト」という作品となり、公演がなされる。

「序破急」の「急」は、結論や終論ではなく、未来へつなげる展望が書かれ演じられる。『Of By Forのエネルギーシフト』は、「市民主体」により行われる終わりのない演劇である。

